

所属・資格 地理学科・教授

申請者氏名 吉野 裕

研究課題		自然災害の被災地における祭礼文化の継承に関する文化地理学的研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究では、自然災害の被災地における祭礼の継承状況を解明するとともに、その存続のための具体的な方策について検討することを研究課題とした。申請者は、自然災害の常襲地帯であり、また東日本大震災の被災地の中で最も甚大な被害を受けた宮城県石巻市・南三陸町を研究対象地域とし、両市町で奉納される女川法印神楽(伝承地:宮城県石巻市女川)が近代以降、いかにして継承されてきたか、また、この神楽を伝える女川法印神楽保存会の神楽師が周辺地域の他の法印神楽の保存会とどのように交流し、これらの存続を促してきたかに関して、複数の保存会に対する聞き取り調査と資料調査を通して明らかにした。
	研究の 結果	令和7年現在、宮城県下には約15団体の法印神楽の保存会が存在すると考えられる。本研究では、その中のひとつである女川法印神楽保存会を事例とし、同保存会の神楽師の中でも、約半世紀にわたって近隣の複数の保存会と交流をしてきた神楽師今野三千雄氏(80歳代・男性)に焦点を当てて研究を進めた。彼は地域で「天才神楽師」として名高く、同保存会の会長を約40年以上もつとめた人物である。現地調査では今野氏、ならびに彼と長年交流のある近隣の二つの保存会にも聞き取り調査を行った。その結果、現在に至るまでの間、今野氏が①人手不足に悩んでいた近隣の保存会からの求めに応じて、これらの舞台で頻繁に演舞し、その成立を支えてきたこと、②後継者不足に陥っていた近隣の神楽保存会と合流したり、通常は禁忌とされる他の神楽保存会の神楽師を弟子として受け入れたりするなどして、近隣の団体との交流を深化させ、これらと相互に神楽師を派遣しあう持続可能な関係を構築していたことが浮き彫りとなった。
	研究の 考察・ 反省	本研究では女川法印神楽保存会とその神楽師を事例として、上記のような観点から研究を進めた。しかしながら申請者は、現段階で、宮城県で活動中の法印神楽の保存会約15団体のうち12団体について調査を行っていない。次年度は、これら未調査の神楽保存会を対象に、組織や活動の概要、後継者の獲得状況、そして他の保存会との交流などに関する聞き取り調査(場合によってはアンケート調査)を実施し、宮城県における法印神楽の継承状況の全体像を詳らかにしていきたい。また、この調査成果をふまえ、いかにすれば各団体が神楽をより円滑に継承し得るか考察を行っていく予定である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所  研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究成果物 吉野 裕 ライフヒストリーからみた神楽師による他団体との交流とその影響—宮城県北部の法印神楽を事例として—『國學院大學研究開発推進センター研究紀要』第19号(印刷中, 刷り上がり27頁), 2025年3月, 國學院大學研究開発推進機構。</p>	